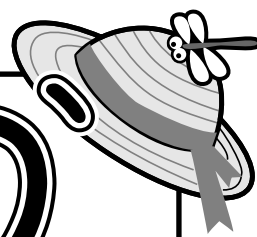




ぼっかぼか

函南病院新設部



病院探検隊がやってきた!!

探検隊ってなあに？

五月二十日(月) 函南病院に病院探検隊がやってきました。これは大阪に本部がある「さえあい医療人権センターCOML(コムル)」というボランティア団体が行っている活動の一つで消費者「患者の目から見た病院のチェックを行う」というものです。函南病院は昨年病院機能評価の認定を受けましたが、それとはまた違った視点で第三者評価をしてもらおうと昨年末からお願いしてあったのがやっと実現しました。

二十六番目！

函南病院は全国で第二十六番目の訪問病院ということになりましたが、当日は十三名の



探検隊の方々にカルテの保管・管理を説明

探検隊員が来高し、三つのグループに分かれて探検を行いました。病院の案内で院内を視察する。自由に院内をチェックする。飛び込み患者として受診する。という三つのグループがそれぞれに病院を点検し、その後現場スタッフ、管理職とのディスカッションが行われました。点検は一五〇項目にわたって行われ、後日レポートの形で提出されましたが、我々が行っている接遇、ホスピタリティに関しては正直言って予想以上の評価があり、食事についても褒めの言葉をいただきました。

さらなる前進に向かって

一方、検査の際のちよっとした心遣いや視線をさえぎることによるプライバシーの確保等に関して改善すべき点の指摘もありました。飛び込み患者として受診された三名の探検隊員からもメデイカル、コメディカルの対応についてはよい評価がいただけましたが、検査の際の荷物やメガネの置き場所、待ち時間等についての改善希望が出されました。この病院探検の内容は五月二十四日付けの高知新聞でも取り上げられました。

こうした改善活動

に決してゴールはありませんが、こうした第三者評価をよい糧にして一歩一歩前進してゆきたいと思



病院食の試食会

花祭り

花祭りとは、お釈迦様の誕生を祝って四月八日に行う行事です。緩和ケア病棟では四月十三日に花祭りを行いました。

「かも部」

ゲストには外科高野Dr率いる「かも部」のアカペラ隊が来てくれました。メンバーは八名。その中には緩和ケア病棟の北岡Nsもいます。他六名は他病院のDrやケースワーカーさんです。多くの患者様や患者様の家族、職員がかも部の歌声を聞きに来られました。熱唱された曲名はスタンドバイミー・上を向いて歩こう・「Love is over」・サーフィンUSA・Womanと皆知っている曲です。ちなみに高野Drはボイスパーカッション担当、声でパーカッションの音を出してリズムをとり皆をまとめます。これがまた想像した以上に上手で皆が聞き入るほどでした。実はこのかも部、めざましTVの「ハモネプ」の高知県大会出場！みごと高知県代表に選ばれたのです。七月に東京での全国大会に出場するのです。ぜひ全国大会で優勝してまた函南病院の緩和ケア病棟で美声を聞かせてもらいたいですね。「かも部」の演奏の後はその余韻に浸りテーブルに飾ってある花々を見ながら患者様、御家族の方々と素敵な時間を過ごす事ができました。

「結果」

さて全国大会の結果は七月六日の二十七時間TVに出演し熱唱したのですが…



介護シリーズ

私達が目指す介護



高齢者ケアの目標は、あらゆる高齢者が生の完成を目指して、人生の最終段階である老年期を健やかで、自立した、生き生きとした快適な生活ができるように

東2F 食堂ホール
「高齢者ケア論」鎌田ケイ子著

環境整備を行う。

- ・ 食堂への移動、他の患者様との交流、音楽を聞きながら食事をするなど、楽しさの工夫。
- ・ 一時的に食事が摂れなくなっても、食への希望を見捨てず、嚥下訓練を行い食事へのチャレンジを試みる。

(嚥下訓練プログラム参照)

排泄への援助

援助することである。全ての高齢者が満足のいく生を有するためにケアの果たすべき役割は重要であるといえよう。

人は誰もが老いや死を迎えます。その人生の最終段階の過程において私達は、人としての尊厳を失わず、快適でやすらかな生活を送っていたただけようにお手伝いをさせていただきます。

食事援助の基本

- ・ 食事は患者様のペースでゆっくりとり、急がせない。
- ・ 身体に機能障害があっても、工夫により、可能な限り自分で食事をとる。
- ・ 食事中の誤嚥を予防するために姿勢は座位とする。
- ・ 食事前の排泄、ポータブルトイレの交換など環境



病室入口にある
トイレ入口はアクリルカーテン

清潔の援助

- ・ 入浴は気分爽快感を与え唯一の楽しみである。週一回は援助する。
- ・ 皮膚は加齢に伴って弾力性が失われ傷つきやすく、介助時は、湯の温度、部分的な圧迫、摩擦等、力加減は慎重に行う。



病室入口にある
洗面所入口は開閉しやすいドア

衣生活への援助

- ・ できれば自分で着脱できるものを選び、時間がかかっても可能な限り、自立の方向で見守る。
- ・ 生活にリズムをつけるため、昼着と寝衣は着替える。



7月は七夕会

遊ビリテーション

- ・ 病院は入院している患者様にとっては生活の場である。日常生活をリズムミカルにする遊ビリテーションは身体的な老化の進行を予防したり、楽しく生きがいとして感じられる運動である。楽しい遊ビリテーションを行う。

身体拘束はしない

- ・ 身体拘束は人としての権限を無視する行為である。
- ・ 胃腸 チュウブを隠し自己抜去を避ける等の工夫をする。
- ・ 経管カテーテル 自己抜去してもその都度再挿入する。注入中は要観察。
- ・ 個別性のあるケアプランを立案

プランに沿った看護 介護を展開し、評価をする。

- ・ ご家族とのコミュニケーションを深める
- ・ 私達はご家族に代わって患者様のお世話をさせていただいていることを認識する。
- ・ ご家族が来院されたら、患者様の日頃の細かな情報や状況をお伝えし交流を深める。



月に一度の遊ビリテーション

この人だあ〜れっ??

関南病院クイズ



このおちゃめな少年は誰でしょう?
この写真は伯母様が撮ったもので県展入選作品だそうです。



このかわいい美少女は誰でしょう?
少女のバックには雄大な室戸の海が

関南病院クイズの答えは8ページ

函南病院の台湾



三人組の女を止めたジャンボ

去る五月の連休に三泊四日で院長はじめ総勢十五名で食の宝庫と言われる台湾に行ってきました。初めての台湾に胸弾むものもあり、その反面何かやらかすのではという不吉な予感……

ジャンボを止めた女三人組

予感的にジャンボを止めた女三人組と言われるはめに。閑空で出発時間が一〇分も早まり、そんなこと知るよしもなく待ち合わせ場所と信じた所でトイレも済ませ待つこと二



台湾は約三時間の空の旅でした。着いた時は既に日は暮れ、ムツとした熱気に満ちた夜市へ出掛けることに、そこは所狭しと色々な屋台が並び人々でこったがえしてました。初めて生で見る光景に少し気がひくのを感じました。



「高知で言う土日曜日みたい？でもマネキンに下着を着せては売ってないかあ」色鮮やかなフルーツに気を

取られ、焼き立てのソーセージを食べて歩いているうちに台湾に来たんだあという実感に包まれてました。二日目は朝八時前から観光開始、この時は集合時間より一時間早く行ってしまい、ホテルの近くを散歩。やたら目に入ってきたのが漢字の雰囲気から婦人科・泌尿器科の診療所の看板・美容形成らしい看板もちよつと興味をもったかな。

観光は寺院やお茶屋さん、博物館を巡り文化の違いを感じたり、懐かしさを覚えたりた



まには、日本を離れ外側から自分を見直す事も大事だなと思いました。台湾の男性は兵役の義務があります。台湾の男性は兵役の義務があ

りこれを終えないと就職も留學もできないのが驚いたのは中正記念堂にある蒋介石の銅像の警護にあたっている兵隊さんは何時間も身動きせずもちろん瞬きもせず立ちっぱなしで時々その兵隊さんを警護する人が汗を拭いたり、服の乱れを直したりしていました。

おすすめは芒果氷

食べ物には物にもありますが全体的に甘い、台湾ビールが美味しくゴクゴク飲みました。台湾にいったらぜひ是非芒果氷を召し上げられ！大皿に練乳を入れ凍らしたかき氷が盛られその上に芒果氷がドカッとのっけもり。量が多

く一皿を三丁四人で食べて丁度位！

最終日の夜は期待のVIP豪華ディナー。隣と三〇cm位離れた円卓に座り、メニューは小さな掛け軸に書かれ一人づつ置かれていました。もうそれだけでリッチな気分！さあ前菜から始まり期待したアワビ登場……。想像よりややこぶりでんー一口で食べてはもったいないと三口で終わり。御馳走は続きフカヒレ・つばめの串と普段中々食べられないものを頂く事ができ、ゴージャスな一時でした。



茂木さんちの
プツ子でーす！

エッヘン！
特技は
何でも破ること

うちのまん

津野さんちの
ナルでーす！



好きな
ことは

ご主人様に
抱っこして
もらうこと

(コセイファミリー・シェパード・カドゥル)
グレートピレニーズ、4歳

介護療養型医療施設 協議会で介護病棟の 取り組みを紹介



介護療養型病棟看護師長
神原 啓子

平成十四年四月二十四日、高知市介護サ
ビス事業者連絡会の介護療養型医療施設の協
議会で当院の介護病棟での在宅に向けての取
組みを発表させていただきました。

高知市介護サービス事業者連絡会の目的は
介護の質を高める 居宅との連携 です。
介護療養型医療施設での困っている事や援助
の方法が分からない事柄をお互いに話し合い
アドバイスをし合いながらよりよいサービス
を提供できるようにという目的で開催されて
います。この会は平成十三年十二月五日に発
足し参加三十五施設を五ブロックに分けてそ
れぞれのブロックで話し合いが行われています。
因南病院は東部ブロックに属しており一回目
のブロック別代表者会議の時に当院の介護病
棟では、三ヶ月毎にケアプラン（介護サービ
ス計画書）の評価を行いカンファレンス（検
討会）ではご家族の方が参加されていること
をお話しすると、他の介護療養型医療施設の
方や市の担当者も驚かれ、今回の発表依頼と
なりました。当日は、ソーシャルワーカーが
当院でのソーシャルワーカーを窓口とした
場合の紹介患者へのアプローチの仕方 を紹
介し続いて介護病棟での在宅に向けての取り

組みを実例を挙げて紹介させていただきました。
その後他の介護療養型医療施設の方々の話
し合いとなりました。「とてもそこまで、で
きていません」「医師の参加はしたことがあ
りません」「家族の参加までできていない」
などの意見がありました。中には当院と同じ
ようにカンファレンスを開いているが、「在
宅の話しをしても家族が受け入れてくれない
入院が長引くと患者が帰る居場所がなくなっ
ている。」と悩まれているところもありまし
た。

さて、介護療養型医療施設は生活の場所
ではありません。患者様が今後の生活される場
所に適するまでADL（日常生活動作）の拡
大をめざしリハビリ室での訓練や病棟内での
生活リハビリを行いながら生活環境を整えて
いかなければなりません。しかし、介護保険
制度が発足してまだ二年です。当院でも全
ての患者様やご家族がその事を理解されてい
ると思えません。カンファレンスへの参加の
時や面会にこられた時など時期をみて説明を
していますが、在宅介護となればなかなか問
題となる事も多くあります。説明は看護師長
が行っていますが、必要時ソーシャルワカ
ーも説明を加えています。また、話し合いの
経過は病棟とソーシャルワーカーが常に連絡
を取り合うように心がけています。何度もカ
ンファレンスを行い問題点の検討を繰り返し
ています。具合が悪くなれば再び入院される
場合も当院でサポートしていきますと言う姿
勢を本人やご家族に理解していただく事も重
要な事です。今後も介護病棟の役割を念頭に
おいてケア展開をしていきたいと思います。

ドクターゼミナール

あつくんの ネパール紀行2

バジエーの住む村
ダマックはインドとの国境
の村だ。高知県でたとえると
ちょうど「ごっくん」で有名
な馬路村くらいのかんじがな
あと云々。



何の因果か高知医大を辞め
多国籍軍医療NGOアムダの
派遣医師となり、ネパールの地を踏んで三日目の深
夜についた村、そこがダマック。あつくんがこの後
約一年間を共に暮らす村……到着したのは十一月の
初旬だが昼間は気温が三十度はある、暑い。
ちょうどアムダの宿泊施設が工事中で二週間後に
はその新居に移るが、とりあえずは民家の一階を仮
住まい。そこで食事を作ったり身の回りの世話をし
てくれる、賄いのバジエーと仲良く暮らす事となる。

バジエーとはネパール語で「おじいさん」と云う
呼び名。高知でもよく聞く「おんちゃん、おんちゃん」
とか「おばちゃん、おばちゃん」のようなもの。も
っとも平均寿命が日本のように高い国、痩せ
て小柄なバジエーも五十歳過ぎ位ではないかと思
われるが、立派にバジエーなのだ。
そのバジエーが、
「高野八医者ナニ、ナンテンナニ瘦せテイルンダ
モットタクサン食ベテ太レ、太レ」
と、盛んに言う。この国では太っていることがス
テータスなのだ。
ブラダの靴や、エルメスのバック、メルセデスベ
ンツ、オウ、おペンツ……

医者という高いステータスの職業に就いていなが
ら太っていないタカノは、バジエーの基本的概念か
ら外れる。余分な脂肪をたっぷり身につけられる
ほどたくさん食べ物を手に入れることができる、イ

クオール力なのだ。
見よ、この自慢の三段ばらき、タップタップ、あ
っはっは……皆さんのため息が聞こえる気がする
行く？、ネパール……

ワカラナイネ、日本人

そういえば帰国後はじめて会ったあつくんは出国
前より太っていた。痩せて少し精神な表情を思い描
いていた筆者は「なんで、そんなにどこでも順応
して生きてゆけるんだよう」と、呆れたことを思い
出した。

あつくん自身も太り始めたことが気になり（バジ
エーの努力の甲斐あつて）ジョギングを思いたつた
りしてみたそだ。

ダマックの石ころ道をあつくんが走る、スタコラ
スタコラ……すると行き交う村人、畑で牛を引くお
じいさん、井戸で洗濯するおばさん、皆、ギョッと
したようにあつくんを見る。振り返る、そして目をむく
気の小さな人は見ない振りをする、どうか……無か
つた事に……

そう、この村の人々は何の目的も事情もないのに
わざわざ走る人間なんて見たことがなかったのだ。
何故、走っているんだあの日本人は……「プ、プキミだ
痩せるためだなんて知ったら腰を抜かすにちがいない
渦巻き模様の皿を回して
綱渡りするパンダでも見る
ような、視線の矢に耐えら
れずジョギングはすくやめ
てしまった。



高いお金を出してエステ
に通ったり、痩せ薬を買っ
たり、はては脂肪吸引、簡
単な外科手術でさえまならないこの国の人たちの
目には、一体どんな風に映るのだらう……

ダマック、アムダ病院
勤務するアムダ病院は鉄筋二階建ての入院病棟に
平屋の外來施設が隣接するもので、ベッド数四十床
ただし、ローカルの十床を含む。ヒョー、含むんかい、

それ。

スタッフは総勢六十人ほど、医師が七、八名、看護師十四、五人、後は事務方や洗濯バジェーやお掃除おばさん。

ここで週三回(月、水、金の午前中)の外来診療を受け持ち、後は入院患者の回診と手術の毎日。

ネパールには国の保険制度がない。(国民健康保険とか、老人医療制度)って事はどういふ事かいと……

外来て診察を受けた患者は医師の指示に従ってカウチャーにおもむき、薬や注射、処置などの医療チケットをまず現金で購入する。それらを持って看護師のもとに行き初めて医療行為が受けられる。

したがって医師が指示を出したにもかかわらず、お金がないと治療を受けられない人々もいる。多くは山深い山岳地帯に暮らす人々だ。

足の傷が化膿して腫れ上がった子供を背負った父親がやって来る。彼らはずでにこの病院にくるだけで何日もかけて歩いてくるのだと云う。そして多くは薬も買えずに、又、何日もかけて帰ってゆく。「それが、現実なんよ!」ぶっくらぼっくら強い口調で怒ったように話す。

どうも、この高野篤という男、やさしいあつくんを他人に知られるのがはずかしいのか、感情を隠そうとする時、妙に強面のキマクラターを作った対処する癖があるようだ。

帰ってゆく親子の背中を見送るのが辛くて思わず泣いちゃったよなんて、どうして素直に言えないんだらう……

今月、今夜、俺の涙で月も曇るぜ、なんて、そこまで言われるとちょっと口元をひねってやりたくもなるが……

疑惑のサンプル薬

お薬の種類は意外と豊富で抗生剤だけでも五、六種類はあるという。インド人のプロバ(製薬会社のセールの人のこと)さんがニコニコとやってくる。この人たちに会うことも大事な医者の仕事の一つだ。何故ならサンプル薬がもらえるから……



「センセ、これサンプルよ。ドーナツ、ドーナツ、うちの薬使ってね。」
「できるだけたくさんさんのプロバさんに会ってたくさんサンプル薬をもらおう、これ、よい医者の力か……」

貰ったサンプル薬はお金がなくとも買えない貧しい人たちの為に使つたのだから、ここに入れておいてねと言われた缶の中にセッセ、セッセと貯めていたが、ついそその薬たちが貧しい人の為に使用されるのを見たことがない。なのに、ふと見ると薬がなくなっている。缶の中から、キ、エ、ル……

アフタ 5 in タマック

おまたせ、そろそろあつくんのアフター5を紹介しよう。と、言っても娯楽施設なんて何も無い。村にレンタルビデオ屋が一軒あるだけ。あとは、屋台に毛を生えたような居酒屋がある。むろん、あつくんはそこに行く。不衛生だとか、現地の食べ物には気がつけてとか、そんな忠告も耳にしたような気がするが、あつくんは行く。それは、あつくんだからだ。ここではジャルと呼ばれる醗酵させて作った地酒が、

「うん、あつくん、好き好き」と、身をよじらせて待っている。お酒といつてもどぶろくのような物で

「ジャル、ヨタ(一ツ)、ディノス(ください)」と注文するとおばちゃんが奥から、あら木綿の布巾に包んだ出来そこないの豆腐のような物を抱えてやって来る。

少量の水を加えた銀色のタライの中で洗濯もするかのごとく、おばちゃんが出来そこないの豆腐をむむ。ギュー、ギュー、絞るようにもむ。甘酸っぱい香りが広がる粗い布巾の目から乳白色の液体が搾り出されると、おまたせ、ジャルの出来上がり。

銀色に光るタライからそのままカップにドブドブと注いでくれる。

少しすっぱいヨーグルト味で大変美味しいのだがあまり度数がないので大量に飲まないで酔わない。すると腹がはるの欠点だと言ふ。が、これはジャルの欠点というより飲み手側の欠点だと思いがいいかだろう。何も腹の張るほどグビグビ、ジャルを飲む必要はないのだ。

この他にもロキシという焼酎や輸入物のワインもある。現地工場産のウイスキーも肩を並べているがこれはマズイ。

つまみは干した水牛の佃煮、芋の煮ころがし、豚の耳、味付けはシンプルで塩コショウがほとんど。あとは香辛料、クルサニという青唐辛子、ガラムマサラルだけで味付けしたトゥッパというソバスープは大のお気に入りだ。

病院の仲間をささって夜な夜な飲みに行く。ゲストハウスではバジェーが自分の世話する日本人を何とかお手持ちらしく見せようと(太らせよう)たくさん料理を作って待っているにもかかわらず……

嘆くバジェーをあつくんはその居酒屋にささってむしる一緒に飲みたい。ところがこの国にはカーストという制度がある。カーストがちがうと結婚出来ないのもちろん同じ席で食べ物を食べたり飲んだりすることも無い。

バジェーはカーストが低い。カーストの違つあつくんの仕事仲間が飲んで席には遠慮して来ないもしバジェーが来れば皆席を立てて帰ってしまうから……

で、あつくんがどうしたかと言つたバジェーには「今日帰りに居酒屋に寄るから晩御飯はいらんないかわりに遅い時間にそこにきてくれ。」

と、言つて出かける。仕事が終わって居酒屋に行くのと仲間がカンガン飲ませる。高知でもよく見かけますねえ

「俺の酒が飲めんかあ、へんばい。」
で、皆がへべれけになった頃バジェーがそつとやってくる。隣に座つてあつくんと飲む。自分以外の誰かが信じていること(宗教や制度)を否定するつも

りも、とやかく言つつもりもない。ただ、そうやってバジェーと酒を飲むあつくんがあたたかい。

一緒に酒を飲みたいだけでそこまでやるかという意見もある。そりゃあそつだ、なほど確かに、至極(もつ)も……



デンジャレス、ウォーター(?)
生水はやはり危険だと云う事で注意をうけていた。飲み水はいったん沸騰させてから飲料水として使用する。水差しに入れて食堂のテーブルなどに置いてある。

皆がその水差しから水を飲むのだがコップなど使わない。水差しの口が自分の口につかないように少し上から一気にクイツと傾けて飲む。慣れるまでは何度か顔面シャワーの洗礼を受ける事となるが、皆とても器用に飲む。

カトマンス国立大病院を立つ前にくれくれも生水を飲むと言われた。が、
「でも、高野は大丈夫だよ。バジェーがついているから、バジェーはきちんと沸かした水を水差しに入れてくれるよ。」

と、言われていたし、特にお腹をこわす事もなかったので安心して来た。ささやかだが手間をかけてくれるバジェーに感謝すらしていた。

が、ある日あつくんは見てしまった。まるで魔が差したように目と目が合ってしまった。水道の蛇口から直接水差しにジョロジョロと水を注いでいるバジェーと……

「あれ、俺の水差しやんけ」
何飲んだって大丈夫なんじゃないのオ、あつくんの腸内細菌。見せつける強さ。

罰が患そうに笑つたバジェー。やるねえ、バジェー、まあ、君が面倒を見てくれてその日本人は大丈夫。少々のことならオーケーだからこれからよろしくね

こうしてタマックの夜は更けてゆく、発酵したジャルの酸っぱい香りと共に……ね、あつくん……

豊かないのち講演会



講師沼野尚美先生
(ヌミノナオミ)

◇函南プロダクション設立?◇

平成十四年三月九日(土)午後一時三十分より高知県民文化ホール(グリーン)にて第七回豊かないのち講演会が開催された。

例年春の訪れ時にもようされるこの講演会は高知緩和ケア研究会の主催するもので、今回は六甲病院緩和ケア病棟チャブレン沼野尚美先生を講師にお迎えし、「人生の終末期において大切なもの」と題して講演願った。

一九九五年に高知県の癌のターミナルケアの発展を目指し設立されたこの会には、函南病院からも徳岡副院長をはじめ二十名近くの職員が会員となり活動に参加している。

昨年徳岡副院長がこの会のイベント委員会を引き受けた事から、函南病院が第七回講演会の準備をする事となり、東五階緩和ケア病棟朝比師長を中心にわかプロダクションの設立、ドタバタ劇の始まりとなった。

◇まねてんてんごまい◇

何をすることも初めての事だらけ、顔つき合わせては

「講演会の準備って、どんな事したらいいがやろし……」

「わからんけど、ポスターとかチケットとか作るがやないが」、「チケットって何枚はあつくるが」

「知らんで、けんど座席の数よりは作らないかんでねえ」

「ほんで席はいくつあるが?」

「それこそ知らん、行って数えた事ないも」と、一時が万事この調子。頼みの綱の徳岡副院長は「僕は販売部長」と勝手に宣言し、実務は朝比師長にまかせっきり。緩和病棟のスタッフも案内状の書ききやらチケット配りにかりだされた。

ただ、徳岡副院長も宣言しただけあってチケットの販売に関しては大活躍。昼休みに病院の自転車を取り、チケットを手に西に東に奔走する後ろ姿に「がんばってね」と、思わず手を振ったものだ。

◇察するより……◇

当日はお天気にも恵まれ会場を埋め尽くすほどの大盛況となり、講師の沼野先生のお話の時に笑い、時に涙し、又考えさせられる良い機会を持てたと思う。この講演会は広く一般の方々に参加を呼びかけるもので、又来年函南病院がお手伝いさせていただく事になるだろうが、是非皆様に足を運びいただきたく願う一方、非力ながらこの会の継続にたずさわられた事をうれしく思う私たちでした。



徳岡先生(左)と沼野先生(右)のツーショット

ふれあい広場



七夕まつり

七月三日緩和ケア病棟にて七夕祭りがありました。市川先生のエレクトーンにあわせて皆で合唱。高野先生率いるかも部のハモネプ、あとはカラオケ大会となり大盛り上がりでした。



地域との交流

平成十四年三月七日(木)高知市南宝永町とてんポウルにて下知地区ボウリング大会が開催された。函南病院は初参加ながら七名の精鋭部隊(?)を投入、地域のさまざまな業種の方々と楽しいひとときをすごした。

一等商品ビデオデッキ、二等空気清浄器、三等高級アイロンなど、豪華商品を横目に闘志を燃やしたが残念、表彰台にはわずかな差でとかなかった。がさすがのラッキーボーイ(?)院長先生が三十七位で当日賞を獲得。参加者全員に参加賞もいただき、みなにこにこハイポーズ。

ゲーム終了後の食事会への参加がなかった事が残念。来年は優勝トロフィーを肩に意気揚々と二次会へも繰り出したいものだ。

こいのぼり会

四月二十五日十四時から随所前にてこいのぼり会を催しました。参加者全員で大声で歌い魚の名詞当て、クイズ・風船上げなど、少しのプレゼント(ヤクルト)を配り、患者様は笑顔が見られ、最後にアンコールの希望がありました。





土佐が燃えて、よさこい祭り

作詩 黒岩武好

- 1. 土佐の高知に 夏が来りゃ
花火合図で 幕が開く
納涼踊りだ 真夏の祭典
鳴子ばやしが 街を練る
土佐で生まれた よさこい祭り
ヨッチョレ、ヨッチョレ、ヨッチョレ よ
ソレ、ソレソレソレ よさこい、よさこい
- 2. 熱いドラマが 破裂する
ロックにサンバに 日本調
街を彩る 祭りの熱気
古いも若気も 燃えに燃え
土佐がはじけて 世界に響け
ヨッチョレ、ヨッチョレ、ヨッチョレ よ
ソレ、ソレソレソレ よさこい、よさこい
- 3. 捻り鉢巻き 紅襷がけ
粹な双肌 姉ちゃんも
どっと練り出す 踊り子仲間
高知の城下は 揺れている
土佐で生まれた 世界の踊り
ヨッチョレ、ヨッチョレ、ヨッチョレ よ
ソレ、ソレソレソレ よさこい、よさこい

四万十川の早春

作詩 黒岩武好

- 1. 春の陽射しに 四万十の
海岸の柳も 芽をふいて
花も香の 山桜
水面に跳ねる 鮎の群れ
慣れた手つきの 竿かじて
私一人を 運ぶ舟
昔馴染みの 船頭さん
- 2. 春を唄つて セキレイが
尻尾ふりふり 友を呼び
光る浅瀬を 跳ね歩く
川面の水も 生温く
慣れた手つきの おじさんの
捻り鉢巻き 達者だなあ
昔馴染みの 船頭さん
- 3. 四万十川の 渡し船
揺れて始めて 故郷が
胸の奥まで 沁みしてくる
おぶくろさんも 元気だと
言葉しみじみ おじさんの
何時も絶やさぬ ああ笑顔
昔馴染みの 船頭さん

忍び恋

作詩 黒岩武好

- 1. 夜更けの街に 雨が降る
二人の肩を 濡らします
貴方は今夜は 帰ってあげて
あなた待っている 妻「ひと」がいる
其処まで私 其処まで私
送りたいのよ 忍び恋
- 2. 貴方の愛を 待ちながら
瘦せた身体に 爪をたて
つけた薄紅 泣いてるだろ
そんな気持ちは 分かるけど
憎まれたって 憎まれたって
どうにもならぬ 私です
- 3. 果ない恋と 知りながら
今夜は独り 帰ります
灯りない部屋 淋しいけれど
私貴方の 胸の中
貴方と一緒に 貴方と一緒に
そんな夢みて 眠ります

編集部より「どなたが作曲していただけますか」

蝉梅の咲き終り来て我老いぬ
球音に木魂かえるや春の雲
口紅を少し濃めに春化粧
年かさね行く先あんじ椿落つ
文旦の旨さ味わう春の雨
病める身に元気もどせと鯉のぼり
泳ぐ姿に心おどりぬ
食へること生命のもとと思えども
食べたくなくていとなさけなし
みどりの日ごちそお食べて思いけり
自然の命病いやすと
死にかけた生命とどめし医の愛は
神と思われ伏しておがみぬ
エミナ

アヤチ



この人だあ〜れっ?の答え!

おちやめな少年は
麻酔科医
西本隆雄先生でした。



かわいい美少女は
緩和ケア病棟
朝比師長でした。



このコーナーは、読者の皆様方の声広場です。
俳句・短歌・川柳・詩・身近な出来事・などたくさん投稿していただき、交流の場としてシリーズでお届けしていきたいと思っております。
ほのぼのと暖かいコーナーに育てていきたいので応援して下さい。
皆様の投稿をお待ち申し上げます。



ブーターロー日記 パーツ5

吾輩は生まれながらの飼猫である。から始まってはやパート5になってしまった。春はもう過ぎ去ってしまったが春は嫌な思い出がある。ご主人様の実家は中追溪谷の近くだが俺の大好きな小鳥がいるシトンボやバツタも取り放題。禁猟区もあるようだが俺には通用しない。裏山に駆け上がりて俺の周囲をジャランジャランしていると早くも獲物の気配。お町育ちの俺だが町内会では名の知れた俺である。しばらく様子を覗いて見るとたいした奴でもなさそうである。いつもの狩猟モードに点火!! 獲物の首根つこめがけて黄金の右腕で猫パンチ!?!?! 窮鼠猫を噛むということわざがあるが不覚にも襲われてしまった…。どうやら田舎の蛇は毒があるらしい…。
ご主人様ヘルプミャー

発行 医療法人久会 函南病院
編集 函南病院新聞部
編集長 久 直史
高知市知寄町一 五一五
電話(〇八八)八八二 三三二六